

伝えて届けて

富岡市立北中学校

三年 佐藤 叶優

「今日のことを、たくさんの人に伝えてください。」
これは、去年の夏、県の派遣団員として広島へ原爆のことを学びに行ったときに、被爆者の方がおっしゃった言葉です。この言葉を聞いて、私ははっとしました。私には、原爆のことを「学ぼう」という意識があっても、「伝えよう」という意識がほとんどなかったからです。しかし、このとき、大切なことは、伝えなければ届かないのだと気づくことができたのです。

みなさんは、貴重な経験をしたときや感動したとき、反省したとき、どうしていますか。きちんと自分の経験や想いを伝えられていますか。私はできていませんでした。しかし、広島で被爆者の方の話を聞き、それを多くの人に伝えることで、「伝える」ことの力に気づ

いたのです。

私は広島で、数え切れないほど多くのことを学びました。原爆の威力で影の焼きついた石、遺族の方の悲しみを身に染みて感じた式典……。これらを通して、戦争、そして原爆の恐ろしさを知りました。そんなとき、私の頭に一つの疑問が浮かんだのです。「原爆の怖さは分かったけれど、これを知っても、私はどうすればいいのだろう。」と。

しかし、こんな私の疑問は、すぐに解決されました。被爆者の方の話を聞きに行ったときのことです。その方は、自身の経験を私たちにとっても熱心に話してくださいました。戦争で大切な家族や友人を亡くしたこと、今もなお後遺症で苦しんでいる方がいること。そして最後に、涙を流しながらこうおっしゃったのです。

「今日のことを、たくさんの人に伝えてください。みなさんがここへ来たのは、戦争について学んで、それをまたたくさんの人に伝えるためです。そうすれば、戦争について詳しく知っている人や興味をもつ人が増やすことができます。そして、また日本で戦争が起き

そうになったとき、その恐ろしさをしっかりと伝えることができれば、戦争を止められるかもしれないのです。」

これを聞いて私は、今までの自分は「伝える」ことができていなかったと、とても反省しました。実際、その日のことでさえ、被爆者の方がこう言うてくださらなければ、誰にも伝えようとしていませんでした。しかし、それではだめだと気づいたのです。

広島からの帰り道、私たちは作文を書くことになっていました。行くときには憂鬱だった作文も、たくさんの人に届くように、一生懸命書きました。家族や友人にも、広島でのことをたくさん話しました。そうしたら、たくさんの人が、広島や戦争について興味をもってくれるようになったのです。弟が戦争の本を読むようになりました。友達が広島に行ってみたいと言うようになりました。そこで私は気がついたのです。「伝える」ことは今回のことだけでなく、どんなときにも大切なことなのだ。どんなに強く想っても、どんなに素晴らしい経験をして、伝えなければ、誰に

も届かないのです。想いや経験は、伝えて、届けてこそ意味のあるものなのです。

それから、私は変わりました。以前の私は、友達とケンカをしたときに、自分の想いも気持ちも伝えずに、「分かってくれない」とただいじけるだけでした。でも、今の私は違います。自分の気持ちをしっかりと伝えたら、何でも話せる親友ができたのです。

私は、広島へ行って、大切なことは伝えなければ届かないのだと学びました。今までの私ならば飲み込んでいた言葉や想い、経験をこれからはしっかりと伝えて届けていきます。

たくさんの人たちが、大切なことを伝え合い、その言葉がお互いの心に届くようになったら、きっと、素敵な世界になると思いませんか。